議 長 受付番号第3号、平野由里子君の一般質問を許します。登壇願います。

4 番 平 野 受付番号第3号、質問議員、第4番 平野由里子。お許しを得て質問させていただきます。

件名、不妊治療助成のさらなる充実を。

要旨。松田町は県の制度に上乘せをする形で、不妊治療に対する助成を実施しています。近隣自治体のほとんどが、県に準ずる所得年齢制限を設ける中で、当町は制限なしであり、1回当たりの助成金上限も20万円と充実しております。しかし、県も、また松田を含む大半の自治体も、対象としているのは特定不妊治療（体外受精、顕微授精）だけです。そこで、次のことをお尋ねします。

1 番、結婚から妊娠、出産、子育てを切れ目なく支援する体制はありますか。

2 番、不妊治療の入り口である不妊検査及びタイミング法や人工授精という一般不妊治療に対する助成を行うお考えはありますか。

以上、よろしく願います。

町 長 それでは、平野議員の御質問に順次お答えをさせていただきます。

まず1つ目の御質問であります、お答えさせていただきます。児童福祉法等の一部を改正する法律において、母子保健法第22条が改正され、町では平成28年9月より、妊娠期から子育て期までの母子保健、及び育児に関する様々な悩みごとに対応し、切れ目のない支援体制を構築するため、松田町子育て支援包括センターを、子育て健康課内に設置しております。妊娠届を提出され、母子健康手帳を交付する際に、専任の母子健康コーディネーター、保健師でございますが、直接面談し、基本となる情報をお聞きいたします。その内容を基に、妊娠経過は順調か、妊娠から出産までの不安や異常はないかなど、健全な妊娠期間を過ごせるよう、いつでも相談ができる体制を整えております。家庭訪問や、電話相談などの個別指導も行い、必要に応じてほかの専門職や、関係機関との連携もとりながら、子育て世代の方を支援しています。そのほか、妊産婦、新生児、低出生体重児などを対象に訪問指導を行い、育児に不慣れな時期に安心できる支援や、養育支援を必要とする家庭の早期発見につなげております。

このように、妊娠期から子育て期までの切れ目のない支援体制は松田町子育て世帯包括支援センターが中心となっております。相談内容や、時間帯によっ

ては対面や電話での相談が難しい場合もあります。今後はメール相談も取り入れて、母子に寄り添い、温かく見守り、必要な支援ができるよう心がけてまいりたいというふうに考えております。

続きまして、2点目の御質問にお答えさせていただきます。まず、不妊治療には、議員が御存じのとおり、一般不妊治療と特定不妊治療がございます。神奈川県及び松田町では現在医療保険が適用されず、一度の…医療費が高額な特定不妊治療である体外受精や顕微受精に対し助成を行っております。治療に必要な不妊検査から、タイミング法や人工授精の一般不妊治療の中には、医療保険が適用にならない検査・治療があります。不妊治療はお子さんを授かりたいと望まれている御夫妻が辛い治療に耐え、行うものでございます。町はどのような御夫婦のお力に少しでもなれるよう、一般不妊治療も保険対応にならない検査治療については助成できるよう、不妊治療費助成金交付要綱について見直しを行ってまいりたいというふうに考えております。以上でございます。

4 番 平 野 非常に前向きな回答をいただきまして、非常にうれしいと思っておりますが、ちょっと疑問のところもありますので、再質問をさせていただきたいと思っております。

まず1つ目の項目に対してなんですが、松田では…松田だけではないと思うんですが、このいわゆるネウボラというのかな、妊娠期から出産・子育て期までの切れ目のない支援体制という、これは非常にね、充実しつつあるなというところで。さらにメール相談も取り入れるということなので、この方向でぜひ頑張っていたきたいなと思っております。私がこの（1）番で取上げ…問題としているのは、もう一歩ちょっと踏み込んでいただきたいかなというところがございます。

つまり、結婚のところから含めて切れ目なく寄り添っていくという姿勢が一つ、ここまで踏み込んでいただけるとすばらしいなと思うわけです。もちろん、結婚や…結婚しても子供は望まないという生き方ももちろんありますし、全ての女性が産むための機械ではないというところはしっかりとね、認識をしていただきたいんですけども。つまり、押しつけはしてはいけないなというのは大前提なんですけれども、やはり、結婚から、しばらくあいてしまって子供が欲しいなみたいなのが、やっぱりちょっとあき過ぎると年齢的にも妊娠し

にくくなるということもあったり、それからやっぱり不妊治療に、2番にもちょっと入っちゃうんですが、不妊治療に踏み込むのにすごく皆さん悩むんですよ。ここでまず悩む。つまり、どっちのせいみたいな検査をしなきゃいけないわけですから。すごくここで悩むというのもあるので、そののところをスムーズにつなげてあげるとよいのかなというのがありまして、それでこの1番の質問を出してみました。つまり、トキがね、佐渡で絶滅しかけたところが少し復活したというのがありますが、それはトキに産めと、産め産めと言っていたわけじゃないわけですよ。産むための環境を整えてああいうことになっているということなんですよね。なので、出産や…妊娠や出産や子育てがしやすい環境を整えるということがやっぱり最低条件なんだろうなというところがございいます。

ちょうどタイミングよく、おとこの新聞なんですけれども、内閣官房参与をされている吉村泰典氏が、東京新聞ではもうトップで記事を出していらっしゃるんですけども、やはり安倍内閣は少子化を国難というふうに捉えて、非常に取組を一生懸命されていたという部分もあったと思うんですね。ただ、やっぱりそこが効果がなかなか出なかったというところもあります。この吉村さんがおっしゃるには、少子化という今の現状は、産みたくても産める環境ができていない社会に対する若い世代のレジスタンス、抵抗なんじゃないかという一面があるというようなことをおっしゃっていて、この社会を整えるにはもう本当に数多くの課題があると思うんですが、それを一つずつ解決していくしかならないのかなと思って、今回の質問、1番、2番、両方ともそういう観点で組み立てております。

具体的に申しますと、埼玉県の宮代町という、そんな大きくない町だと思うんですが、ホームページに、結婚から妊娠・出産・子育てまでを一続きに、ライフステージとして捉えて応援しますというページがちゃんとあるんですね。おお、すごい小っちゃな町なのにすごいなと思って見ると、実は内容は埼玉県のサイトにリンクが張ってあっただけなんですけれども、埼玉県のサイトには結婚・妊娠・出産・子育て応援の公式サイトというのが作ってありました。これは、じゃあほかの県もあるんじゃないかなと思って探したんですが、神奈川

県にも実は似たようなサイトがあるんですが、結婚と妊娠のところがつながってなかったんですね。妊娠・出産・子育てはつながっていたんですが、結婚は結婚と婚活だけでちょっと途切れちゃっているような状況。ここをうまくつなげて、ライフステージという考え方で、ずっと切れ目なく応援するよという、本当これホームページだけのことなんで、町で作れなければそれこそ県に対する要望でも、大して予算がかかることじゃないので、ぜひお願いしたいなというところなんです。この辺を、どうでしょうか。町でこういう支援を打ち出していくというお考えはどうでしょうか。

子育て健康課長　　今、議員がおっしゃるとおり、今、不妊治療については国もいろいろと考えているところのようです。今、これから首相の…首相が新しい方に代わるタイミングなんですが、その中で菅さんが首相になった際には不妊治療にも取り組むとか…（「まだ分からないよ。」の声あり）そういったお話もございますが、町としては今、結婚から妊娠までの期間については、町との接点は今ない状況です。そろそろ妊娠をと望まれたときには、年齢的な問題とか、なかなか妊娠につながらない、そういったこともあるかと思います。不妊治療についてはホームページ等を活用して情報提供を行っていきますが、今、議員がおっしゃったように、他の市町村の事例も参考に、これからどんな取組ができるか考えてまいりたいと思います。

4 番 平 野　　ありがとうございます。ぜひ取り組んでいただければなって思いますので、この1番に関してはこれでいいのかなって思います。

では、2番に関する再質問をさせていただきます。今、課長がおっしゃったように、国のほうでも方針が出ていて、これは新しい首相が誰になるかに関わらず、既に5月末の時点に、政府の少子化対策の指針、少子化社会対策大綱というのが打ち出されまして、その中に不妊治療の保険適用の拡大も実は盛り込まれているんですね。ところが、ちょっと政治的にごちゃごちゃになってしまっていて、国会もちょっと尻切れとんぼで終わったままで、今度首相交代というふうなところになってしましまして、これがはっきりと確定できた段階ではないというところで、今、今、保険…保険適用をこれ待つべきかどうかというふう悩んでいる夫婦も実はいらっしゃる状況というふう聞いております。

それに対してアドバイザーなんかは、年齢を考えて、もし30代になっているなら、この確定するまで待つというのはちょっとリスクであるというような回答をされているところも見ましたので、ここがもたもたしているのであれば、町のほうでぜひ一歩進んで、この初期治療に対する助成もしていけばどうだろうなというふうに思います。

それで、回答の中では早速、一般不妊治療に対しても、保険適用にならない部分に関して助成できるように見直しをすると回答がありましたが、この保険適用になるかならないかのこの初期治療のところでは、どの辺りが対象になりそうでしょうか。つまり、検査、それからタイミング法、それから人工受精という段階があると思うんですが、どうでしょうか。

子育て健康課長 保険適用になる部分についてですが、検査についてはいろいろな、病院によっても保険適用になるものとならないものとあるようです。タイミング法という手法については保険適用になっており、人工受精は保険適用外というところになっております。そういったところで、先ほど申し上げたように、不妊検査についてこれからどのようなものが対象になるかならないか、こういったところをもう一度確認をしてまいりたいと思っております。

4 番 平 野 そうしますと、検査に関しては保険適用になるかならないかがちょっと分からないけれども、もしならない検査を受けた場合には町の助成も考えるということですかね。タイミング法は保険があるのでいいとして、人工受精はこれは保険適用外ですから、町のほうで何とか対応したいと。ありがとうございます。これはいつぐらいには、具体的にはどんな感じでしょうか。タイムスケジュール的にはどうでしょう。

子育て健康課長 要綱等を定める必要もあるんですが、ちょっとまだ、先ほど申し上げたように、検査についての詳しい調査ができておりませんので、その辺がしっかりできて、要綱を定めて、なるべく早い時期を目指して頑張りたいと思っております。

4 番 平 野 コロナ禍でね、実はこの不妊治療を中断しているという、そういう御夫婦の話もちょっと聞いたりしているんで、ぜひ何かこういうのは背中を押す方策になるので、急いでほしいなというふうな要望で、それはいいかなと思っております。

ます。

このちょっとデータのなところをね、本当にこの機会に皆さんに知っていたきたいと思うのは、やはり初産の平均年齢が上がってきているというのがはっきりデータで出ております。1985年には26.7歳だったものが、平成25年には30歳を超えて、その後も上昇し続けております。2017年が、私が持つて最新データですが、30.7歳ということで、かなり、晩婚化もそうだけど、初産の年齢も上がっている。そして、3組に1組の御夫婦が不妊ではないかなと心配をしているということで、そのさらに5.5組に1組が何らかの不妊治療をされているというデータがあるんですけども。つまり、心配されていた人の中で自然に妊娠をしたという方は全員ではないと思うので、その中で妊娠がなかなかうまくいかないところがこの不妊治療を始めているんだけど、やっぱりそこを悩んだまま時間が過ぎてしまうという方もやっぱりいるはずですね。2017年に産まれた子供の16人に1人は体外受精によるというデータももう出ております。なので、本当にこれは身近な話なんですね。非常にここをフォローしていくというのがどれだけ大事かというのがよく分かります。

それからあと、女性だけの問題ではなくて、男性の不妊治療というものも多くなっておりまして、タレントのダイヤモンド・ユカイさんなんか、実際自分が経験されて、啓発活動をね、されているということなんですね。なので、本当にこの一部の人の話ではないというところで取り組んでいただきたいなと思っています。この近隣では大和市さんがどちらもやっているんですね。一般に対しても、それからこの特定に対しても、両方やっています。伊勢原、綾瀬、箱根は、実は一般のほうをやっていて、特定のほうは県があるからいいだろうということでやってないそうなんですけれども。各自治体いろいろね、事情に応じて取り組まれているなと思うんですが。大和市さんと並んで、非常に全国的に有名なのは愛知県の東海市なんですね。東海市はどちらもやっていて、それももう10年ぐらい前からやっている。そして、合計特殊出生率というものも1.82まで上げているので、かなりの効果が出ていると言ってもいいかもしれません。

実は、じゃあ、都道府県は何もしてないのかということそうではなくて、東京

都は実は平成29年から一般治療に対しても助成を始めております。もちろん特定不妊はあるんですけどね。さらに一般にも踏み込んでいます。そして、やっぱりこういうことを悩んでいる若い御夫婦はインターネットで検索するんですよ。妊活ブログというのが、結構個人のブロガーがいっぱい出てくるんですけども、私たちは東京に住んでいるので、一般も対象になってよかったわみたいなことも出てきます。なので、若い御夫婦が住まいを定めるときのやはり一つのファクターになりつつあるというのが感じられるんですね。なので、松田は本当に、今までも充実、この近隣では充実しているというふうに承知しているんですが、ぜひここ一步踏み込んで、またさらに1つ頭抜け出して、松田は結婚から妊娠・出産・子育てまで、すごく全部のステージを応援してるよというような、こういう姿勢を打ち出すということで、どうでしょう、最後に町長、この辺のお気持ちを伺いたいんですが。

町長 御質問ありがとうございます。まず、今、取り組んでいる県の費用に上乗せして町としてやっているということについては、本当に、私の身近な方が本当に不妊治療について、要は経済的な面も含めてですね、やるのかやらないかということですごく悩まれてて、うちの課内にとりか、最終的にそれを制度化するときも、そのときの当時の課長さんといろいろとやり合った…やり合ったといましようかね、発想が違ったなというのが今までに記憶があるんですけども。要は、考え方の中にその治療をする、支援をすることによって、非常にリスクが高い年齢の方々にも促進しているというふうにとられてしまうんじゃないかなということをおっしやっていたんで。そうではなくて、そういうふうにと、本当に大変な思いをされている御夫婦のために、やられた後に対してのそのフォローをするといった面での支援金ということを考えているので、その辺は我々がどうこう言うことではなくて、御本人たちが一番よく分かっている話だということの中から制度化をして進めているところでございます。

今後もそのような方々が徐々にやっぱ増えていくということも予測もしてますし、やっぱり安心して町に、当町に住んでもらって、結果的にまた町を離れる人がいたにしても、どこの町がどうというよりも、やっぱり子供は宝ですから

ね。日本の宝として、この小さい松田町に住んでよかったなと思ってもらえる
んであれば、そういった取組にもですね、積極的に取り組んでまいりたいとい
うふうに考えての先ほどの答弁になりますので。時期的なところは先ほど課長
がおっしゃってますけども、一日も早くですね、制度化して進めていきたいと
いうふうに考えております。以上です。

4 番 平 野 ありがとうございます。本当に町全体…町全体がこの前向きに、こういった
方たちの悩みに向き合うということで、非常に期待しておりますので、どうぞ
よろしくをお願いします。私の一般質問を終わりにいたします。

議 長 以上で受付番号第3号、平野由里子君の一般質問を終わります。